

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：中部整備局都市整備課
担当課長名：筒井 祐治

事業名	都市計画道路 広小路線		事業区分	街路	事業主体	名古屋市
起終点	自：名古屋市春岡一丁目 <small>なごやしはるおかいっちょうめ</small> 至：東山通5丁目 <small>ひがしやまどおりごちょうめ</small>			延長	2.6 km	
事業概要	都市計画道路広小路線は、本市中心部と東部方面・名古屋ICとを結ぶ幹線道路であるが、慢性的な交通渋滞が発生している。本事業はこの渋滞緩和のため、電線類地中化や歩道舗装のカラー化等景観にも配慮しながら本市の東玄関にふさわしい道路整備を行っている。					
S62年度事業化	S21年度都市計画決定 (H12年度最終変更)	S62年度用地着手	H3年度工事着手			
全体事業費	731億円	事業進捗率	97%	供用済延長	0.5 km	
計画交通量	70,000台/日					
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 2.3	総費用 (事業全体) 840億円 (事業費：840億円 維持管理費：0.25億円)	総便益 (事業全体) 1,935億円 (走行時間短縮便益：1,961億円 走行費用減少便益：-15億円 交通事故減少便益：-11億円)	基準年	平成15年	
事業の効果等	・個性ある地域の形成（日本万国博覧会場への交通円滑化が見込まれる。） ・災害への備え（地域防災計画の推進に寄与することが見込まれる。）					
関係する地方公共団体等の意見	広小路線は国際博覧会開催に必要な関連事業として重要な役割を果たすことが期待されており、平成14年4月に日本博覧会協会等より政府への要望があり、閣議了解されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成17年3月に愛・地球博が開催され、会場と名古屋市を直接結ぶ広小路線の交通増が見込まれる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在、事業の収束段階にきており、引き続き残りわずかとなった用地の取得と工事進捗を図る。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	愛・地球博開催時（平成16年度末）までに、6車線供用を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	構造物へのプレキャスト製品使用や建設副産物の有効活用などによりコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	広小路線の拡幅整備は交通ネットワーク形成上極めて重要なものであり、事業も残りわずかになったことから、引き続き本事業を積極的に押し進め、一刻も早い完成を目指す。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。